



SSH 事業「リサーチセミナー」を致遠館高校で実施

【概要】

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の一つである「リサーチセミナー」が致遠館高校で開催され、電気電子工学部門の和久屋 寛 准教授が「人工知能を取り巻く過去・現在・未来について ～2020年夏に考える～」と題して、簡単な理工学部紹介の後、これまでの人工知能に関連した研究成果などを披露しました。

【本文】

2020年6月6日に、佐賀県立致遠館高等学校において、スーパーサイエンスハイスクール事業（SSH 事業）に関わる今年度第1回の「リサーチセミナー」が開催されました。対象は、理数科に在籍する1年生（120名）で、電気電子工学部門の和久屋 寛 准教授が「人工知能（AI）を取り巻く過去・現在・未来について ～2020年夏に考える～」と題して講演しました。

例年であれば、本セミナーは視聴覚室で行われますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から3密回避のため、体育館で行われました。現在、高校側でも遠隔授業などが試験的に開始されていますが、大学側とのICT環境の違いも意外と大きく、このような形態での開催としました。

冒頭部分で空撮映像を用いた簡単な大学紹介を行った後、大学における学びや進路などについて説明し、理工学部の教育研究内容を簡単に紹介しました。そして、「ICTまちづくりデザインプロジェクト」や「スマート化プロジェクト」など、専門の異なる研究者が協力して研究を進めていることにも触れました。また、昨今、急激に進んでいる身近なAI導入事例について、本学のAI-CampusやモノタロウAIストアなどを取り上げて紹介しました。

これに引き続いて、鹿島市肥前浜宿を対象モデル地区とした緊急時の避難経路探索について説明しました。ここでは、生物進化のメカニズムを情報処理に応用した「遺伝的アルゴリ



リサーチセミナーの様子

ズム」という AI 技術の一手法を用いていますが、後日、寄せられた感想などによれば、生物学とコンピュータの結び付いている事実に驚いているようでした。また、過去数年間にわたる研究成果を 1 年ごとに分けて説明しましたが、これにより、研究を進めるに当たって年度ごとの目標を設定し、それに挑戦していくことの重要性を理解してもらえたのではないかと思います。このような考え方を、2 年生になって取り組む課題研究で活かしてもらえれば嬉しい限りです。

今年度に関して言えば、上述のようなコロナ禍によって、高校側も年度初めから異例の対応を迫られたようです。この先、想定外の事態に見舞われる可能性もありますが、生物進化の歴史を紐解けば、大量絶滅という苦境を乗り越えた後に、大いなる繁栄を迎えています。この“先の読めない時代”にあって、逞しく生きていってもらえると有難いです。